

市民まちづくり懇談会会議録（発言要旨）

と き	平成29年6月9日（金） 19:30～21:05
と ころ	出石庁舎 2階 大会議室
市出席者	市長、政策調整部長 事務局（政策調整課：4名）
参加人数	57名（男性50名、女性7名）
会議録（発言要旨）	
男性A	<p>大名行列保存会に対する補助金が、今年になってから「平成30年度から補助金カットする」と一方的な通告があった。</p> <p>主要手段2で伝統、文化を守るといいながら、こういうものをカットされるのは、どういった考えか。</p> <p>主要手段2では、ハード面ばかり触れられている。ソフト事業なども市内に多数ある。そういうものの価値や継続の考え方を基本構想の中に入れるべきではないか。</p>
市 長	<p>基本構想には大きな道筋を書きます。市長が4年間でどういうことを具体的にやるかという「市政経営方針」策定し、毎年度の予算の中で、さらに具体的な事業を決めていくこととなります。</p> <p>基本構想の中には、〇〇地域の〇〇を守るといった具体表記は入らず、施策の具体化の中で対応を明らかにすることとなります。</p> <p>今の例は、市教育委員会事務局で、様々な文化財やソフト事業も含めて、どのように支援するのが最も効果的なのかという議論がされ、様々な団体等に教育委員会がアンケート調査した結果、団体運営費の補助ではなく、例えば、三味線やだんじりなどの補修などへの支援を求める制度の方が望ましいとの意見が多かった。そのため補助の在り方を変えたものです。</p> <p>伝統、文化を切り捨てるという方向ではなくて、改めて市全体の伝統、文化を守るため、まずは市として検証し、市の指定文化財になり得るものはそういう方向に導く。</p> <p>市の指定文化財には至らないが、大切なものであるならば、例えば、地域遺産というような形の新しい制度を作って検証する仕組みを作っていく。教育委員会には文化歴史に知識を持つ職員がいますので、そのノウハウを生かした支援をする。</p> <p>伝統、文化を守るために限られた財源をどこに投入するのが最も効果的なのか、そういう観点での見直しと理解いただきたい。</p>
男性B	<p>今まで基本計画を策定されても具体的な行動がなされず、まちづくり会社や商工会に委託しているような気がする。</p> <p>例えば、ゼネコンやスーパーゼネコンは10万人以下の都市では投資はしない。デベロッパーもいない。行政主導の再開発事業もしないというようなことで、具体的な推進母体がない。結局、地権者でやろうにも、地権者が高齢化、資力もなく、ノウハウもない。民間一企業がリスクを負って再開発をすることは難しく、こういう基本構想ができて、何年後には都市計画決定を打って実行に移すということもないように感じる。</p> <p>そういうことを望むとともに、地域ファンドやSPCでも良いので、そういう組織を作り、具体的な方策を考えていただきたい。</p> <p>ようやく農地を空き家付きで1㎡以上から持てることになり、一つの前進だと思うが、規制があり市外からということがある。実際、豊岡の市街地でも退職して第一線を離れたから村部に住んで老後を暮らしたい人もあり、具体的な例も起きている。農業に意欲がある人は空き家を利用して耕作してやっていけばいいのではないか。市外からの移入は、多く望めず年2～3組成立したらいいのではないか。大きな流れにはなりにくいので、域内での活用ができないか。</p>
市 長	<p>基本構想や総合計画を定めた後、実際の仕事を全て委託してしまうということはありません。現に豊岡市の一般会計の予算は約500億円執行しますが、そのうち必要な事業は、商工会やまちづくり会社などに委託するが、ボリュームとしては僅かです。</p> <p>まちの中に空き家が増え、まち中の空洞化がかなり進んできている。この状態をどうするかはこれから大きな課題になる。ご指摘のあった通り、大手デベロッパーが来ても規模が小さくて儲からない。他方で従来のような再開発の手法が本当に出石という地域に合うのか。あるいは、豊岡のまちなかに合うのか。やり方については相当慎重に考える必要がある。</p>

	<p>例えば、まち中では、高齢の方だけが住んでおられ、1階は空き店舗になっている。何軒か分をまとめて、お年寄りの方々には遠くないところに住宅を建て、そこに集まっただき、空いた空き家の方をまとめて再開発をするというように、大規模なものではなくて、少し小ぶりの実態に合ったような開発の仕方がこれから必要なると思う。</p> <p>昔からある古い家をどんどん壊し、近代的なビルを建てたのでは、出石の魅力が全く失われてしまうので、慎重にやる必要がある。</p> <p>それと、行政が旗をふるとみんな行政の言うままになり、個人の利益に関することであっても、ひたすら市の職員、町の職員が文句を言われて、全部お前らがやれということになってしまい、実は動かないというケースが多数あった。</p> <p>そのため、これは協働作業でやるんだというようなスタンス、姿勢が必要です。そのため、徹底した話し合い、対話があるものと考えている。どこか一か所で具体例をやることを通じてその技を身につければ、他への適応も可能と考えている。問題意識は同じように持っているので、ぜひ私の任期中に形が取れるかどうかかわからないが、大切な課題として私もしっかりと見届けたい。</p> <p>農地についても、例えば、高齢者で田舎に移り住んで農業もしたいという場合、多くは専業農家をやりたいという方はおられないだろうと思う。楽しみとしてされるので、そんなに大きな農地はいらない。逆に一反も畑があったりしたら、草の管理もできない。そういう方々はちょっとした家庭菜園があればいいというふうに思う。そういったことにも対応できるように、農業委員会が面積の下限をかなり下げたという状況です。</p> <p>地域ファンドについてはいろんな方法があると思う。地方銀行自体、例えば豊岡でいえば但馬銀行、但馬信用金庫とか地方の金融機関が、国の方針でもあるが、地方の取組みに積極的に関わるといって姿勢が出てきている。</p> <p>そういった金融機関とつなぐということが一つあると思う。最近だとクラウドファンディングをやったりすることもあり、実際にそれでもってある程度の資金を得た、例えば、豊劇の再建はそういう方法をとっている。総務省の制度で、半分は公金からですが、残りの半分は銀行から借りなさい、そうすれば半分補助金を出すというやり方で、つまり半分でも金融機関が貸すとすると返していかないといけないから、どうすれば事業がうまくいくかということを経験になって一生懸命計画を立てる。そうすると資金の半分は国から入ってくる。その辺のお手伝いを市がやっている。市にも話が入ってきているが、外の資本が地方における取組に対してファイナンスするファンドのようなことも現にある。WILLER（ウィラー）株式会社という高速バスの会社が、豊岡にカスタマーセンターを置いている。このWILLER自体もファンドを設けていて、WILLERの塾みたいなのをやっている、そこで鍛えた人が実際に起業、何かチャレンジしようとする時に資金を提供することもやっけてきているので、おっしゃったような芽が出てきている。こういった流れをよく見ながら、豊岡として確実なファンドの在り方についてはしっかりと検討していきたいと考えている。</p>
男性B	具体的に事例があるが。
市長	市の環境経済部のエコバレー推進課にお話をいただければ、対応させていただけると思う。
男性B	相談したが、断られた。
市長	<p>私たちも内発型産業がすくすくと育っているということを柱に据えようとしている。トライをする人、とりわけ若い人の挑戦をすごく応援したい。</p> <p>基本的に外からどっかの会社の工場が来たとか子会社が来たとか、それも良いが、やはり地元で挑戦する人たちが、失敗を恐れずにどんどん挑戦していくというような気風を作っていきたいと思っている。もう一度協議いただきたい。</p>
男性C	<p>ローカル&グローバルの成功事例と自分の区を見た時にギャップがある。自分の区の中で身近な小さい成功例を作っていくことが全体として将来的には大事ではないか。</p> <p>区によって事情が違うので、市にはきめ細やかなサポートを望みたい。</p> <p>目標が高いと見失ってしまう。その時々での到達点が見えるようにしていくというのが大事ではないか。</p>
市長	<p>12年後の目標は短いようであっても想像しにくいところがある。いきなり12年後ではなく、その途中の中間目標を作ることが必要になる。それが、4年間の市政経営方針や毎年度の予算という形に現れてくると考える。小さな成功例を積み重ねるといっても大切なやり方だと思う。</p> <p>「小さな世界都市」で世界中から人々が来ているというイメージを最も実感しているのは城崎地域だと思う。城崎は昨年4万人強の外国人宿泊客があり、店や外湯に行けば外国人に出会</p>

	<p>うということが現に起きてきている。</p> <p>城崎の人たちが日常感覚で見る「小さな世界都市」の現実味と出石や但東の現実味とはばらつきがあるため、その差を埋めていく作業がとても大切だと思っている。</p> <p>先月エールフランスという航空会社が、フランス人をもっと日本に引っ張ってきたいと、フランスの旅行代理店の職員を10人連れてきた。城崎と出石に来られたが、全員評価がものすごく高かった。もちろん城崎はすごく高くて、とても満足したというのが圧倒的だが、出石の評価がものすごく高かった。</p> <p>圧倒的に高かったのが永楽館で、これを守り復活させ、歌舞伎を開催しているというのがフランス人にはすごく魅力的に見えた。それから併せて出石のまちの魅力も見えた。PRすることも大事だし、具体的に足をどうするかということの一つ一つクリアをしていくことによって、このまちの中にもっと海外の方が来られる。</p> <p>その方々は日本的なものを求めている。京都のように洗練された観光地すぎているところより城崎のような普通の人々の暮らしがある中で同時に観光地みたいところが評価されていることがこれまで来られた方のアンケート調査で分かっている。</p> <p>出石の中でも農村部にもチャンスはあるのではないかと考えている。具体的に成功例を積み重ねていかないと形にならない。今は城崎を旗印として掲げているが、それだけでは滞在時間が短いので、つないでいく必要がある。つなげば滞在時間が長くなって、落ちるお金も多くなり、経済的に助かるということになるので、つなぐということをしつかりとやっていきたい。</p>
男性D	<p>今現在生きている人たちの対応をどうしていくかの上に乗って、12年後というのがないといけない。今の子どもたちが12年後には大人になっているわけですから、その子たちの育成がないとこれから先の方向は定まらないなという思いがする。</p> <p>いろんな伝統的なものや生活の部分での問題を解決していくのは、今生きている私たちがしているわけですから、それらをどう踏まえながら、先にもっていくかという方法をぜひ立ててほしい。</p>
市長	<p>その通りだと思う。国民健康保険や介護保険。あるいは法律で計画を作ることが求められている介護保険計画や障害者福祉計画など、基本構想に記載されていなくても、やらなければならないことはあるので、その項目を忘れないようにするため基本構想第6章に書かれている。</p> <p>12年後を目指すのは、今の私たちなのでそこをどうするかというこういったご指摘だろうと思います。子どもたちのことも含め、この中に、明日死んでいると思っている方はいないと思う。そうすると、明日の私というのは今の私。あるいは、明日の私たちはやっぱり今の私たちであるため、それをどこまで広げて考えることができるかということだろうと思います。</p> <p>ご指摘をいただいたように、隣の方の12年後のことまでなかなか考えられないにしても、私たちの子どもの世代のことなら私たちというふうに考えることができるのではないかと。そういう意味でも子どもたちをこの12年の間にどんなふうに育てていくのかということとは、とても大切なことだと思う。</p> <p>さらに今日はあまり説明がなかったが、市が適応しなければならない社会潮流の中に、AI（人工知能）のことがある。これをわざわざ書いているのはものすごく危機感がある。今までのロボットは人間の身体に代わるものですから、重いものを代わりに持ってくれる、熱いところで代わりに作業してくれる。</p> <p>AIは人間の頭脳に代わっていきます。弁護士や医師の診断という仕事が無くなる可能性もある。そういったことがいつ起こり出すのかということ、今の幼稚園や小学校低学年の子どもたちが大学に行くとき、あるいは大学を卒業して仕事をする、仕事をして間もない頃にそんなことが起きてくるので、そういったことに対応できるような教育とか育て方をしておく必要があるのではないかと。</p> <p>AIが取って代わることができない仕事として、共感とか交渉とか美的センスだとか宗教、哲学などは残ると言われている。豊岡の教育も今からそういう方向に舵を切っていく必要があるのではないかと。そういう意味で12年後と今をつなぐ。その間の教育がとても大切だということはおっしゃる通りだと思う。</p>
男性E	<p>今年、除雪ができなかった時に、一軒の家で人が倒れ、最終的には救急車が入れずに亡くなりました。</p> <p>今後こういうようなことがないような除雪、救急の対応をお願いしたい。</p> <p>もう1点、出石に長いこと住んでいますが、外に出ればどこも真っ暗、明かりが点いているところがない。反対に村部に行った方が、明かりがよくついています。</p> <p>市長が言われたように誰もで手を組み合せて、1軒でも明かりを点けていただくように今後</p>

	<p>努力していただけないだろうか。</p>
市長	<p>除雪では本当にお世話になりました。この冬は本当に雪が多く、豊岡市で6億円くらい除雪費を使っている。普段で1億5千万円～2億円くらい。除雪延長は740Km。豊岡から岩手県の花巻までの直線距離に相当する。それをわずか4時間半であける。今回はそれでもあいていないとおっしゃるため、そこでまたやる。圧雪された雪をおいておけば凍るので、夜中のうちに排雪する。そうすると24時間労働みたいになり、市の職員も建設業のみなさんもヘトヘトになってしまうが、一生懸命支えていただいた。改めて感謝申し上げます。</p> <p>除雪延長740Kmは、豊岡市の道路の総延長約1,200Kmのうち幹線部分で、生活道路はそれぞれの努力でお願いせざるを得ない。今おっしゃったように、仮に市が除雪しない道路だとしても、何かあったときに救急車がどう入るのかということがあるので、この対応策はさらにきっちりやっていく必要があります。</p> <p>一つは、今議会に復活させる予算を提案しているが、地区で除雪機を買われる場合に対する補助制度を市の方で設け、地区の中で比較的元気な方が有償または無償ボランティアであけていただくようなことができないか。</p> <p>もう一つは、例えば市が担当している所の一部を国交省にやってもらえれば、市ができなかったところに入ることができる。あるいは逆に市がルール上は入れないことになっているけれども、あけなければいけないところを国交省にお願いするという形でやれば、今までより機動力ができるのではないかと考え、そこは改善を図っていきたい。</p> <p>真っ暗というのは空き家が出てきたことだと思う。これは市全体の課題だが、出石の街中なら、このまちで商売をしたい人、こういうところで暮らしたいという都市部の若い人はいるはずですので、そこを一つ一つつぶしていく、積み重ねていくことが大切だと思う。</p> <p>市は空き家に対する補助制度を二つ持っている。一つは商売をする時に商売分野に対する補助と、住むという住宅にする場合の補助制度。これは両方使うことができる。住宅を改修する時に家具の片づけ賃も補助対象にすることに4月からしているので、これまでよりは少しハードルを下げることはできたのではないか。</p> <p>あとはこれを豊岡に行きたいと思っている人に、効果的に情報を届けてその気にさせるか。その情報発信が大切なのではないか。いずれにしても、まちの人たちと私たちが一緒になって売っていくということがいると思う。</p> <p>例えば、豊岡の奈佐の目坂では、去年40歳代の夫婦が神戸から引っ越してこられた。この方はTシャツとかのプリントをしてネット販売しておられる。ネット販売ですから、神戸にあると目坂にあると全く関係ない。出石のまちの方がはるかに条件がいいので、チャンスはある。あとは本気になってやるかどうか。あるいはこの家賃してもいいよという方があるかどうか。一緒になって一軒一軒明かりを取り戻していきたいと思っている。</p>
男性F	<p>一点目は、1番の自然との共生です。自然との共生と自然災害対策はともすれば相反する課題になりがちだと思う。現在されている河川や急傾斜、湾岸の工事だとか、見ていると自然との共生には相反する、画一的な工事になりがちではないかと、個人的な考えを持っている。</p> <p>工法は良くわからないが、基本構想の12年後に果たしてこの工事で世界が認める自然との共生ができるような自然が残っているかと言ったら、どうかなのというところがある。市として工事の目付け役が必要ではないか。</p> <p>もう一点は、交通手段の問題。出石にとってはこれが一番ネックになっている。JRが通っている城崎、竹野これはもう太刀打ちできないし、出石や神鍋、但東の方にインバウンドをいかに持ってくるかとなると、交通の便がというのが喫緊の課題だと感じている。</p>
市長	<p>自然との共生で、例えば、豊岡でうまくいっている例は、円山川に結構コウノトリの姿が見られるようになったこと。堤防を高くするのも安全性を高める方法であり、逆に川底を掘るのも同じ効果を持つ。</p> <p>河川敷を掘ってやると流れる水の量が増えるので、同じ雨の量なら水位が下がる。縦×横で決まるので、浅く広く掘るという方法を国交省がやりました。浅いから、コウノトリが降り立つことができるようになってきた。出石と豊岡の境の所に加陽湿地が完成しました。河川敷を国交省が全面買収して湿地を作るという日本の中でも豊岡が誇るべき事業だと思う。</p> <p>他方で、急傾斜は全くなっていない。もちろん命が大切ですから、裏山が崩れるのは困る。そのため急傾斜工事で止めることはもっともなことだが、返す刀で目を背けたくなるような景観を放置するというこんな技術がなぜ解決できないのか。つまりあの工事は安全さを増す上では地方の暮らしを支えているが、田舎の強みをどんどん弱めていく相矛盾する形であると思う。強く意見を言っている。県や国の土木技術者もそれを受け止めていると思う。一朝一夕にはな</p>

	<p>かなかいかないと思うが、技術的により良い方向に持っていくか、これからさらに議論がなされて、具体的な成功例を積み上げていくと思っている。</p> <p>経済的にも合理的な技術がなかなかないと思うので、価値の転換と併せて必要なのではないか。</p> <p>交通の問題では、鉄道を作ることは現実的には不可能な話です。バス路線とタクシーとでどういうふうにリーズナブルな値段でやっていけるか。力任せに税金で赤字部分を支えないことには、城崎と出石の間はペイするだけのお客さんがいない。</p> <p>実際に実験的にやってみても大赤字ですから、ここを巧みにやっていく必要がある。その中で可能性があるとする相当ICTが進んできているので、定期の路線は日々の暮らしを支えるため仕方ないが、バスの運行自体をもう少しオンデマンドで手堅く、手軽に行ける仕組みがないだろうかということで、今、そういう研究が始められている。</p> <p>WILLERという会社はもともとネット販売で大成功しているところであり、WILLERなんかも相当そういうシステムに関心を持ってきているので、ぜひ実現できるようなものを探り当ていきたい。</p> <p>もう1つは富裕層を狙う中で、出石に来る交通費を物ともしない人たちを誘客するというのも有効な方法ではないか。</p>
男性G	<p>出石皿そば協同組合で出石史料館の指定管理を受けている。出石の中でも指定管理を受けているところが3か所、家老屋敷、史料館、明治館とあるが、現在の施設は見学などがほとんど。ほとんど入館料と指定管理料で賄っているが、市がされているインバウンドなどを考えるとそういう施設を観光交流施設という形に変えられないのかと。</p> <p>現在、文化振興課が管理されているが、条例の規定などで貸館事業などができない状態です。民間がやっているのも民間のアイデアだとか、施設の運営の仕方だとかはいろんな知恵があるので、市にある文化施設を体験型の施設に変えることはできないか。</p>
市長	<p>市の方で積極的にこうするという考え方は持っていない。むしろ指定管理者側で、いろんな制約を超えて、もっとやりたいという意欲があれば、相談に乗せていただけたらと思う。</p> <p>大交流課の方に一度お話をいただきたい。これまでのインバウンドの経験でやっぱり本物が受ける、偽物は受けないというふうに考えている。出石の大切な歴史的なものの中で楽しんでいただくこと自体はむしろ文化を楽しんでいただく、理解をしてもらうということなので、施設自体も喜んでもらえるのではないか。</p> <p>どういうプログラムができるか、できたプログラムをちゃんと外国の方に届けることができるか。出石のまちづくり全体の中で、つないでいくものの一つにこういうのがありますというふうに位置づけると魅力的なものが増えてくるのではないかと思う。</p> <p>そういう意欲がおありでしたら、大交流課の方に連絡いただければ、彼らは受け止めて相談に乗らせていただけたらと思う。</p>